

平成 17 年度生理研研究会

脳神経科学・精神医学の主要ツールとしての遺伝子改変マウスの表現型解析

日 時：平成 17 年 6 月 30 日～7 月 1 日

場 所：愛知県岡崎市明大寺町字東山 5-1 山手 3 号館 2F セミナールーム

提 案 代 表 者：宮川剛（京都大学医学研究科 先端領域融合医学研究機構）

所内対応教官：池中一裕（生理学研究所 分子神経生理部門）

6 月 30 日(木)

13：00～14：15：セッション 1

「脳神経科学のラージスケール化における遺伝子改変マウスの表現型解析の位置づけ」

司会：宮川剛（京都大学医学研究科）

はじめに

池中一裕（生理学研究所）

饗場 篤

神戸大学大学院医学系研究科 分子細胞生物学講座 細胞生物学分野

「マウスリエゾンについて」

宮川 剛

京都大学医学研究科 先端領域融合医学研究機構

「国際的な動向・背景と提案」

若菜 茂晴

理化学研究所ゲノム科学総合研究センター ゲノム機能情報研究グループ

「ENU 誘発大規模マウス突然変異体開発プロジェクト：ラージスケールプロジェクトの利点と問題点」

<coffee break>

14:30～16:30：セッション 2

「個別研究の立場から」

司会：八木 健（大阪大学 生命機能研究科）

木下 専

京都大学大学院医学研究科 先端領域融合医学研究機構

「行動学的スクリーニングによって見い出された、セプチン欠損マウスにおける線条体ドパミン

ニューロンの異常」

石野 史敏

東京医科歯科大学 難治疾患研究所 エピジェネクス分野

「エピジェネティクス研究と脳神経科学の接点」

内匠 透

(財) 大阪バイオサイエンス研究所

「スパインの異常から精神行動異常へ」

児島 伸彦

群馬大学大学院医学系研究科医科学専攻 高次細胞機能学教室

「drebrin 過剰発現と発現阻害の効果の解析 細胞レベルから個体レベルへ」

<coffee break>

16:45～18:45 : セッション 3

「プロトコル標準化とコアラボの可能性について」

司会：尾藤晴彦 (東京大学)

一瀬 宏

東京工業大学大学院生命理工学研究科 分子生命科学専攻

「ビオプテリンによる脳内ドーパミン・セロトニン生合成の調節機構」

西 昭徳

久留米大学医学部 薬理学講座

「DARPP-32 リン酸化を指標としたドーパミン情報伝達系の解析」

真鍋 俊也

東京大学 医科学研究所 基礎医科学部門 神経ネットワーク分野

「海馬・扁桃体スライス標本を用いた電気生理学的表現型解析」

平井 宏和

金沢大学 学際科学実験センター 革新脳科学プロジェクト研究領域

「小脳電気生理解析のプロトコル標準化と問題点」

19:00～ 懇親会

7月1日(金)

9:00～10:30 : セッション 4 「ヒト研究との融合はどのように可能か」

司会：和田圭司（国立精神・神経センター）

功刀 浩

国立精神・神経センター神経研究所 疾病研究第3部

「マウスによる精神疾患の研究の問題点」

池本 桂子

福島県立医科大学神経精神医学講座

「精神疾患脳バンクの現状と展望」

梶井 靖

三菱ウェルファーマ

「動物モデルとヒトの研究から精神疾患創薬へ：遺伝子改変マウスへの期待」

<coffee break>

10:45～12:15：「**総合討論**」

- ・ 問題点や論点などの提示：宮川剛（京都大学）
- ・ Discusser（池中一裕（生理学研究所）、糸原重美（理化学研究所）、小林克典（日本医科大学）、小林和人（福島県立医科大学）、崎村建司（新潟大学）、白尾智明（群馬大学）、瀬藤光利（統合バイオサイエンスセンター；三菱生命研究所）、深海薫（理化学研究所バイオリソースセンター）、福永浩司（東北大学）、森寿（富山医科薬科大学）、吉木淳（理化学研究所バイオリソースセンター））らによる意見と議論
- ・ Concluding Remark：八木健（大阪大学）